

JX金属グループの歴史は、創業者・久原房之助が1905年に日立鉱山を開業したことに遡ります。当時、製錬によって発生する亜硫酸ガスを回収する技術が確立されておらず、工場からの排煙によって周囲の森林・農作物に被害が広がっていました。

そこで久原は、地域住民への補償を行うとともに、排煙を広域拡散させて被害を食い止めるため大煙突の建設を提唱。約3万7,000名の人員と巨額を投じ、高さ155.7メートル（当時世界一）の大煙突を完成させ、煙害を激減させることに成功しました。こうした地域社会とともに発展を目指す久原の姿勢は、現在もJX金属グループのDNAとして受け継がれています。



JX 金属グループ企業行動規範

- 1. 社会的使命**
たゆまぬ技術開発をベースに、責任をもって製品設計を行うことにより、限りある資源から、多様な製品を無駄なく、効率的に開発・生産するとともに、リサイクルを推進し、環境負荷を低減することにより、顧客・社会の満足と信頼を獲得します。
- 2. 法令、ルールの遵守及び公正な取引**
国内外の法令、ルール等を遵守するとともに、社会良識にしたがって、公正・透明・自由な競争・取引を行います。
- 3. 企業情報の開示及び個人情報の保護**
株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、個人情報の保護に注力いたします。
- 4. 安全衛生と職場環境の確保**
安全衛生・防災を最優先するとともに、従業員の人格・人権・個性を尊重した働きやすい職場環境を確保します。
- 5. 環境の保全**
環境問題への取り組みは、企業の存在と活動に必須の要件であるとの認識のもと、地球環境の保全活動（生物多様性の維持を含む）に自主的、積極的かつ継続的に取り組みます。
- 6. リスク管理の充実・強化**
根拠あるデータに基づく管理システムを構築し、リスク管理を充実・強化します。
- 7. 社会との共存共栄**
社会貢献活動を積極的に推進し、「良き企業市民」として社会との共存共栄を図ります。
- 8. 国際的な事業活動**
国際的な事業活動においては、関係する国や地域の人々の基本的人権を守るとともに、文化・慣習を尊重し、持続可能な発展に貢献する経営を行います。
- 9. 反社会的行動の排除**
社会の秩序や安全を脅かす反社会的な勢力や団体とは、毅然として対応します。
- 10. 経営幹部の責務**
経営幹部は、この行動規範を率先垂範・周知徹底するとともに、規範に反する事態が生じたときには、自らその原因究明、再発防止に当たり、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を果たします。

